

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

自分の全生涯がきょうである 松原 泰道 (南無の会会長・龍源寺前住職)

1. 中国の古典の「大学」の中に、「日に新たに、日に新たに、また日に新たに」という有名な格言があります。これは、昨日よりきょう、きょうより明日と少しでも成長していかなければならないという意味が込められています。「新たに」という言葉は、西洋では「懺悔」を意味するようでありますけども、東洋では「学ぶこと」あるいは、「教化する」ということです。
2. 「きょう為すべきを明日に延ばさず、確かにしていくことが、よき一日を生きる道である」。私はこの言葉が好きで、良い生き方をしていくためのヒントになると思っています。しかし、そうしようと思いがなかなかできないですね。途中で疲れてしまって、また明日にしようと考えたら、翌日にそれだけ荷物を積んでいきますので、なお忙しくなります。
3. 「一日暮らし」という言葉があります。「その日暮らし」と似ていますが、違いますね。「その日暮らし」は、蓄えも何もなくて、その日一日をどうにか暮らしていく乏しい生活のことを申します。「一日暮らし」ということは、自分にとってきょう一日はかけがえのない大切な一日である。どんなにつらいことも、きょう一日と思えば我慢できる。きょう一日は、一生涯の中の日ではなく、「自分の全生涯がきょうである」と考える。そういうことから、今日では「一日一生」という言葉も生まれてきたようであります。

(参考:「致知」2009年4月号)

経営者のための理念・哲学

無常の3原則

山折 哲雄 (宗教学者)

1. 経済用語の景気変動を、宗教用語で表現すると「諸行無常」となる。そこには3つの無常原則がある。地上に永遠なるものはない。形あるものは必ず壊れる。人間は生きてそして死ぬ、という3つだ。景気は循環するもの。そうした前提で冷静に見つめ直してみたらいかかだろう。
2. 無常の3原則は誰も否定できない客観的な事実である。問題となるのは、その事実を受け入れる文明と、そうでない文明があるということだ。老子の思想そして仏教文明は、これを受け入れてきた歴史がある。一方でユダヤ・キリスト教文明を持つ西洋社会は、これを絶対に受け入れなかった。後者の文明が選択した道は生き残りとして表現できる。こうした2つの流れを汲み取ってきた日本の文明だからこそ、次なる第3の道を歩み始めることができるはずだ。

(参考:「日経ビジネス」:2009年3月16日号)

海外事情

「新たなビッグスリー」が現われる

1. 潮時が変わったのは、1930年代の大恐慌だった。1935年に大統領に就任したフランクリン・ルーズベルトは、不況克服のために大規模な公共事業を次々と打ち上げていった。この「ニューディール」によって、米国の広大な国土に高速道路網が整備されていく。それを土台にして、ゼネラル・モーターズ(GM)やフォードが急成長を遂げる。奇しくも、大恐慌以来の不況が襲ってきた、そして、難局の脱出を図る新大統領が登場し、新たな「ニューディール」を提唱する。
2. そして、歴史は繰り返す。「グリーン・ニューディール」によって、石油とビッグスリーの時代は終わりを遂げるだろう。米国は新しい産業の土台を早急に作り上げ、「21世紀のビッグ・スリー」の登場を待つ。新しいインフラの上で彗星のごとく現われるに違いない。その企業がどこなのか、オバマにもはっきりと見えていない。

(参考:「日経ビジネス」2009年3月16日号)

古典に学ぶ

真の剛者の道

「真の道德修養というものは、意気地なしになるどころか、それとは正反対に、最もたくましい人間になることだと言ってよいでしょう。すなわちいかなる艱難辛苦かんなんしんくに会おうとも従容として人たる道を踏み外さないばかりか、この人生を、力強く生き抜いていけるような人間になるでしょう。その意味からは真の道德修養は、またこれを剛者の道、否、最剛者の道と言ってもよいでしょう」

(参考:森信三「修身教授録抄」:致知出版社)